



学校評価（自己評価と学校関係者評価）中間報告

【学校運営】落ち着いた環境の中で、生徒と職員が一体となって教育活動に取り組んでいる。

【学力の向上】落ち着いて学習に取り組んでいる。一層の授業研究、学習習慣の定着が課題

【心の教育】地域での豊かな体験学習が充実し、交流を通して社会性が着実に育まれている。

【健康・体力】毎日の朝食など望ましい生活習慣が定着している。命の教育を推進する。

【地域連携】学校の様子を理解してもらうため情報発信を強化。家庭への確実な伝達が課題

※生徒、保護者アンケートは7月実施。数値は肯定的な回答「そう思う・どちらかと言えばそう思う」の合計です。各アンケートの結果のグラフは学校ホームページに公開しています。

【確かな学力の向上について】Aプロジェクト

○前進している点

- ・Web配信システムを活用した授業改善や全校一斉の事前学習会などの取組を進めた。昨年度に課題となっていた教科で県平均程度、もしくはそれを上回る得点を取れるようになってきた。
- ・「授業の流れ」、「ねらい・めあて」の提示など、授業のユニバーサル・デザイン化の取組が浸透してきた。生徒「授業が分かる」90%以上、職員「ユニバーサル・デザイン化の取組」A判定

●課題となる点

- ・家庭学習時間が極めて少ない 生徒「1時間以上」37%未満、保護者「1時間以上」44%
- ・Web問題や全国学力調査の結果を活用した授業改善の取組の一層の推進 職員自己評価B判定

◇今後の取組について（プロジェクト長：研究主任 久保 成毅）

全国学力調査の結果を基に、「学力向上推進プラン」を策定しました。3月末までに全校でやり切ることを確認しました。「木の実谷タイム」では、担任と副任で家庭学習の計画をチェックし、意欲と実践力を高めます。2学期末には1時間以上の生徒が60%以上のことを目指します。また、話し合い活動や発表の仕方の工夫など、学び合う授業を各教科で実践します。

【豊かな心の育成について】Kプロジェクト

○前進している点

- ・生徒会活動を軸とした温かな人間関係づくりの推進 「学校は楽しい」生徒95%、保護者82%
- ・いじめや差別のない学校づくり 生徒「安心して学習や生活を送る」「思いやりをもって接する」「差別をしない」「悪口や陰口を言わない」いずれも90%以上、保護者「安心して生活」71%
職員「いじめの未然防止、早期発見、組織的な対応」A判定

- ・人権教育、同和教育の授業実践：5月から11月まで毎月一回指導主事を招聘しての職員研修

●課題となる点

- ・いじめを見逃さない学級づくりの一層の推進：生徒「いじめを見逃さない雰囲気」17%が否定的
- ・自己存在感の実感、自己決定のできる場、他との共感的理解を深める場面の一層の充実

◇今後の取組について（プロジェクト長：生徒指導主事 武田一美）

10/9に小学校と一体となった「いじめ見逃しゼロスクール集会」を開催します。標語をつくるなど、保護者、地域の皆様を交えて、機運を一層高める機会にしたいと考えています。ご参加ください。また、自己有用感、規範意識やコミュニケーション能力などの社会性や郷土愛を育むことを目指して、総合的な学習の時間を中心に地域と連携したキャリア教育を一層推進していきます。

【健康と体力の向上、命の教育について】 Bプロジェクト

○前進している点

- ・5月のOKAMI遠足、体育の授業で目標をもって取り組んでいた。学習カード活用が効果的
- ・生活習慣が良好である。朝食摂取はほぼ100%、栄養バランスの意識も生徒78%、保護者76%と高い。食育や生活習慣病予防教室の成果が見られる。就寝時刻も午後11時以前が75%で良好。
- ・メディアセーブ運動期間において、メディア接触2時間以内の生徒が65%と目標の80%に達していないものの、着実に改善している。生徒の委員会活動、小中連携の取組による効果が大きい。

●課題となる点

- ・スマホやゲーム、テレビ視聴のルールが定められていない家庭が多く。無制限のケースがある。
- ・メディアセーブ運動期間以外でのメディア接触時間が依然として多い。

◇今後の取組について（プロジェクト長：保健主事 江島美知子）

2学期も9月と11月の定期テスト前の2回、メディアセーブ強調週間を実施します。ご家庭でメディア使用に関するルールを今一度確認してください。また、10月には学校保健委員会による「心の自己管理」の講演会を、3年生では「誕生学」「赤ちゃんふれあい教室」の命の教育を実施します。

【地域連携、小中連携】 企画委員会、小中連携部会

○前進している点

- ・家庭、地域への情報発信、地域行事への参加・・・職員自己評価 A判定（昨年度より充実）
- ・小中一貫教育初年度において、児童生徒の行事等での交流、職員の研修での交流が充実

●課題となる点

学校HPでのブログ更新、月1回の学校だよりの他、学年・学級だよりで学校の様子を伝えているのだが、保護者の認識は「十分である・どちらかと言えば十分」が63%と低い。授業公開の機会を拡充するなど、学校に足を運んでもらう機会の設定を工夫する必要がある。

◇今後の取組について（教頭 三浦 伸一）

地域イベントへの参加・協力を2学期も進めていきます。がんばっている姿にお声がけください。11/27には社会同和教育研修会として市民の方に道徳授業を公開します。ぜひともお越しください。

学校運営協議会（学校関係者評価委員会）を9月18日に開催しました。学校の取組や自己評価結果について、資料に基づき担当より具体的に説明をし、様々なご意見をいただきました。2時間近く協議を重ね、おおむね十分の評価をいただきました。今後の教育活動に生かしてまいります。

【委員の皆様（敬称略、順不同）】

小山正昭、常山哲夫、吉村伸子、大滝健彦、吉田加代、渡辺孝、五十嵐一也

【会議での話題から】



- ・いじめを許さない意識の一層の高揚が必要では。
- ・全国学力調査等でよい結果が出ている教科の授業の進め方を他の教科で参考にしてするなど工夫を。
- ・学習習慣定着のための「木の実谷タイム」の実施は、とてもよい試みであると思う。成果につなげてほしい。
- ・スマホなどの依存をなくす取組の徹底を。
- ・祭り等での地域貢献活動が充実してきている。

右のQRコードで吉川中ホームページにアクセスできます。「吉中ブログ」では、吉中の毎日の様子がご覧いただけます。

